

17 野菜収穫機の導入

- 野菜作を規模拡大するためには、収穫作業の能率アップと労力軽減が不可欠です。
- 能率アップおよび労力軽減・人件費低減の面で、大型機械による収穫が注目されています。

<収穫機導入目的>

○経営規模拡大・効率化

近年、食の外部化の進展や加工食品に対する原料原産地表示義務付けの拡充を背景に、加工・業務用への国産野菜を求める実需者ニーズが高まってきており、平成30年の野菜産出額は2.3兆円と米の産出額(1.7兆円)を大きく上回っている。

しかし、基幹的農業従事者の平均年齢は、67.8歳(R2年概数値)と高齢化がすすんでいることに加え、特に野菜作の収穫作業は人力に依存している品目が多く、作業者の負担が大きいことから、面積拡大の阻害要因となっている。

このような中、作業の効率化や労働力確保の観点から、県内でも、大規模農家やJAなどを中心に昨今導入事例が出てきている。

<収穫機導入メリット>

【大型収穫機の導入メリット】

- 収穫作業の効率化
重労働からの開放、作業時間を短縮できる。
- 労働費削減
現行作業と比較し、作業要員の削減が可能。



井関 たまねぎ収穫機
VHA670SR6

ねぎ収穫機
HL10U



にんじん収穫機
CH400F



キャベツ収穫機
HC1400

